

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和2年度技術情報について

令和2年度技術情報第2号を發表したので送付します。

令和2年度技術情報第2号

令和2年7月1日
徳島県

6月第2から第5半旬にかけ、ハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が増加しています。

現地においては、発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：野菜類(特にネギ、えだまめ、夏秋ナス、トマト、ミニトマト、オクラ、れんこんなど)及び花き類(キク、バラなど)

病害虫名：ハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウ

I ハスモンヨトウ

1.発生地域 県内全域

2.発生時期 7月上旬～

3.発生状況

(1)フェロモントラップへの誘殺数

フェロモントラップの定点(9地点)調査において、6月第2半旬から誘殺数が増加し、6月第2から第5半旬では、平均95.6頭と、平年(21.0頭)に比べて約4.6倍多かった(図1)。この時期にこの誘殺数が認められるのは過去10年間で初であり、今後、7月第1半旬頃に幼虫の発生ピークが来ると予想される。

(2)夏ネギ圃場の発生動向

5月第6半旬に実施した夏ネギの徳島市現地9圃場における巡回調査では、発生は認められなかった(平年同時期は、発生圃場率が0.0%、寄生株率が0.0%)。

(3)れんこんにおける被害状況

6月第5半旬には鳴門市の圃場において幼虫による葉の被害が認められている。

4.防除法等

(1)老齢幼虫(図2)になると薬剤が効きにくくなるので、若齢幼虫期(図3)に防除する(表1)。

(2)卵塊(図4)や分散前の若齢幼虫(図5)を発見したら、速やかに捕殺する。なお、施設の鉄パイプなどにも卵塊を産みつけるので、注意して観察する。

(3)同一系統の薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

(4)防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

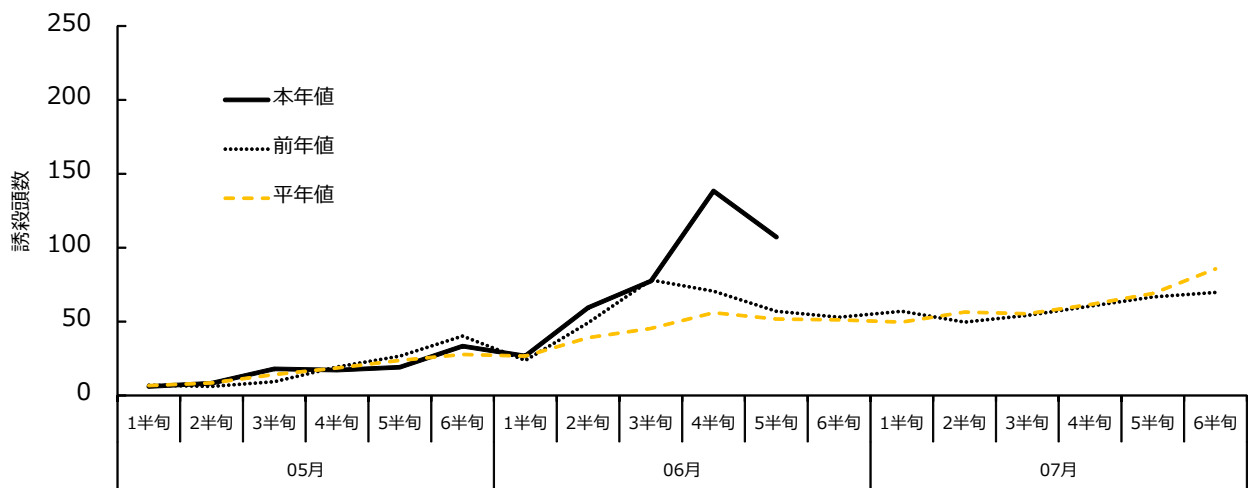


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数 (野菜圃場)
 ※徳島市, 石井町, 阿波市, 吉野川市, 東みよし町及び三好市の9地点平均



図2 ハスモンヨトウの老齢幼虫



図3 ハスモンヨトウの若齢幼虫



図4 ハスモンヨトウの卵塊



図5 分散前のハスモンヨトウの若齢幼虫

表1 ハスモンヨトウに登録のある主な農薬

作物名	農薬名称 (商品名)	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	RAC コード
えだまめ	アタブロン乳剤	2000~4000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	15
	アフアーム乳剤	1000~2000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布	6
	トルネードエースDF	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	22A
	ノーモルト乳剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	15
	ハスモンキラー	1000倍	幼虫発生初期	-	散布	31
	ハスモン天敵	1000~2000倍	発生初期	-	散布	31
	プレバソンフロアブル5	4000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	28
	マトリックフロアブル	2000~3000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	18
オクラ	アタブロン乳剤	2000倍	収穫前日まで	4回以内	散布	15
	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	13*
	プレバソンフロアブル5	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	28
	マトリックフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	18
つるむらさき	カスケード乳剤	4000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	15
	コテツフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	1回	散布	13*
	ハスモン天敵	2000倍	発生初期	-	散布	31
トマト	アタブロン乳剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	15
	アニキ乳剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	6
	トルネードエースDF	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	22A
	ノーモルト乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	15
	ファルコンフロアブル	4000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	18
	フェニックス顆粒水和剤	2000~4000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	28
	ブレオフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	UN*
	マッチ乳剤	3000倍	収穫前日まで	4回以内	散布	15
トルコギキョウ	トレボン乳剤	1000倍	-	6回以内	散布	3A
なす	アニキ乳剤	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	6
	アフアーム乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	6
	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで	4回以内	散布	13*
	トルネードエースDF	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	22A
	ノーモルト乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	15
	ファルコンフロアブル	4000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	18
	フェニックス顆粒水和剤	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	28
	ブレオフロアブル	1000倍	収穫前日まで	4回以内	散布	UN*
	プレバソンフロアブル5	100倍	育苗期後半~定植当日	1回	灌注	28
	プレバソンフロアブル5	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	28
	マトリックフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	18
ミニトマト	アタブロン乳剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	15
	アニキ乳剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	6
	ノーモルト乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	15
	フェニックス顆粒水和剤	2000~4000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	28
	ブレオフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	UN*
	マッチ乳剤	3000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	15
豆類(未成熟)	ブレオフロアブル	1000~2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	UN*
野菜類	クオークフロアブル	400倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布	11(A)
	デルフィン顆粒水和剤	1000倍	発生初期但し、収穫前日まで	-	散布	11(A)
野菜類(はくさいを除く)	ゼンターリ顆粒水和剤	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布	11(A)

II シロイチモジヨトウ

- 1.発生地域 県内全域
- 2.発生時期 7月上旬～

3.発生状況

(1)フェロモントラップへの誘殺数

フェロモントラップの定点(9地点)調査において、6月第2半旬より誘殺数が増加し、6月第2から第5半旬では、平均97.6頭と、平年(19.0頭)に比べて約5.1倍多かった(図6)。この時期にこの誘殺数が認められるのは過去10年間で初であり、

今後、7月第1半旬頃に幼虫の発生ピークが来ると予想される。

(2)夏ネギ圃場の発生動向

5月第6半旬に実施した夏ネギの徳島市現地9圃場における巡回調査では、発生は認められなかった(平年同時期は、発生圃場率が1.1%、寄生株率が0.1%)。

4.防除法等

- (1)幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、若齢幼虫期(図7)に防除する(表2)。
- (2)卵塊(図8)や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに捕殺する。
- (3)同一系統の薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。
- (4)防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

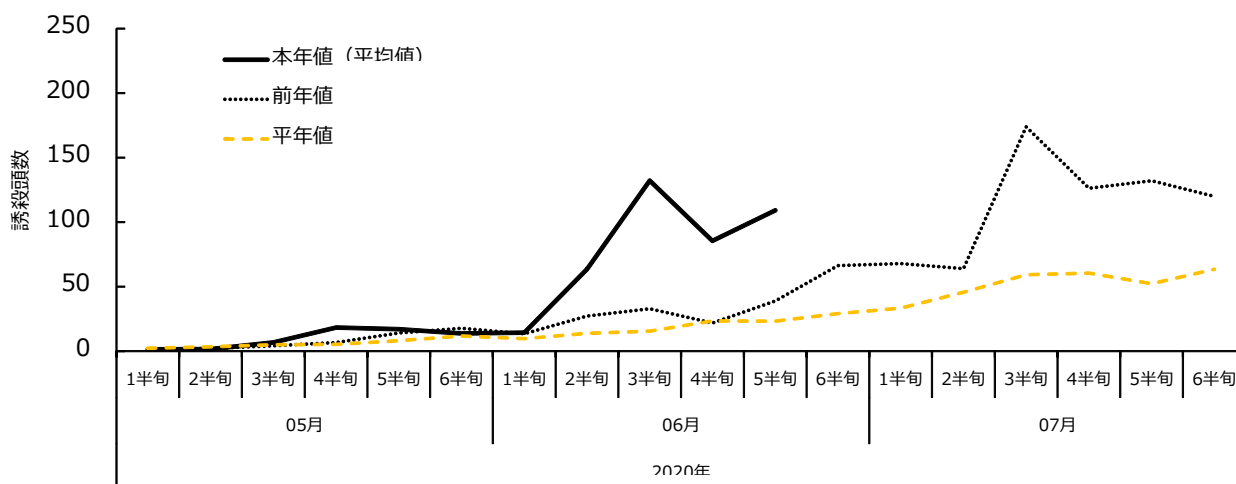


図6 シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺数(野菜圃場)

※徳島市, 石井町, 阿波市及び吉野川市の7地点平均



図7 シロイチモジヨトウの若齢幼虫



図8 シロイチモジヨトウの卵塊

表2 シロイチモジヨトウに登録のある主な農薬

作物名	農薬名称 (商品名)	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	RAC コード
ねぎ	アニキ乳剤	1000~2000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	6
	アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	6
	グレーシア乳剤	2000~3000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	30
	コテツフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	13*
	ファルコンフロアブル	4000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	18
	フェニックス顆粒水和剤	2000~4000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	28
	ブレオフロアブル	1000倍	収穫3日前まで	4回以内	散布	UN*
	ブレバソフロアブル5	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	28
	マッチ乳剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	15
	マトリックフロアブル	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	18
きく	アタブロン乳剤	2000倍	発生初期	5回以内	散布	15
	ロムダンフロアブル	1000倍	発生初期	5回以内	散布	18
スターチス	カスケード乳剤	4000倍	-	3回以内	散布	15
トルコギキョウ	マトリックフロアブル	2000倍	発生初期	4回以内	散布	18
花き類・観葉植物 (きくを除く)	ロムダンフロアブル	1000倍	発生初期	5回以内	散布	18